

参考資料
(第31回大阪府学校教育審議会 抜粋)

2. 府立高校等の現状と課題認識

① 府立高校等の現状

2 - ① 府立高校等の現状

(8) 2年以上定員に満たない府立高校

旧1区

- ① 東淀川高校
- ② 東淀工業高校
- ③ 北野高校
- ④ 柴島高校
- ⑤ 淀川清流高校
- ⑥ 淀商業高校
- ⑦ 扇町総合高校
- ⑧ 桜塚高校(全・定)
- ⑨ 豊島高校
- ⑩ 刀根山高校
- ⑪ 豊中高校
- ⑫ 千里青雲高校
- ⑬ 池田高校
- ⑭ 渋谷高校
- ⑮ 園芸高校
- ⑯ 箕面高校
- ⑰ 箕面東高校
- ⑱ 豊中高校能勢分校
- ⑲ 北千里高校
- ⑳ 吹田高校
- ㉑ 吹田東高校
- ㉒ 山田高校
- ㉓ 千里高校
- ㉔ 芥川高校
- ㉕ 阿武野高校
- ㉖ 大冠高校
- ㉗ 高槻北高校
- ㉘ 三島高校
- ㉙ 槻の木高校
- ㉚ 茨木西高校
- ㉛ 春日丘(全・定)
- ㉜ 北摂つばさ高校
- ㉝ 茨木工科高校(全・定)
- ㉞ 茨木高校
- ㉟ 福井高校
- ㊱ 摂津高校
- ㊲ 島本高校

旧3区

- ㊳ 南高校
- ㊴ 清水谷高校
- ㊵ 夕陽丘高校
- ㊶ 大阪ビジネスフロンティア高校
- ㊷ 高津高校
- ㊸ 今宮高校
- ㊹ 桃谷高校(通・定)
- ㊺ 生野工業高校
- ㊻ 勝山・桃谷(Ⅰ・Ⅱ部)統合新校(仮称)
- ㊼ 今宮工科高校(全・定)
- ㊽ 西成高校
- ㊾ 阿倍野高校
- ㊿ 工芸高校、第二工芸高校
- 100 住吉高校
- 101 天王寺高校
- 102 東住吉高校
- 103 平野高校
- 104 東住吉総合高校
- 105 長吉高校
- 106 住吉商業高校
- 107 水都国際高校
- 108 港南造形高校
- 109 阪南高校
- 110 教育センター附属高校
- 111 八尾高校
- 112 八尾翔羽高校
- 113 山本高校
- 114 八尾北高校
- 115 かわち野高校
- 116 花園高校
- 117 布施高校(全・定)
- 118 みどり清朋高校
- 119 日新高校
- 120 城東工科高校
- 121 布施工科高校
- 122 枚岡樟風高校
- 123 布施北高校
- 124 河南高校
- 125 金剛高校
- 126 富田林高校
- 127 長野高校
- 128 大塚高校
- 129 生野高校
- 130 松原高校
- 131 懐風館高校
- 132 藤井寺高校
- 133 藤井寺工科高校(全・定)
- 134 狭山高校
- 135 美原高校
- 136 農芸高校

旧2区

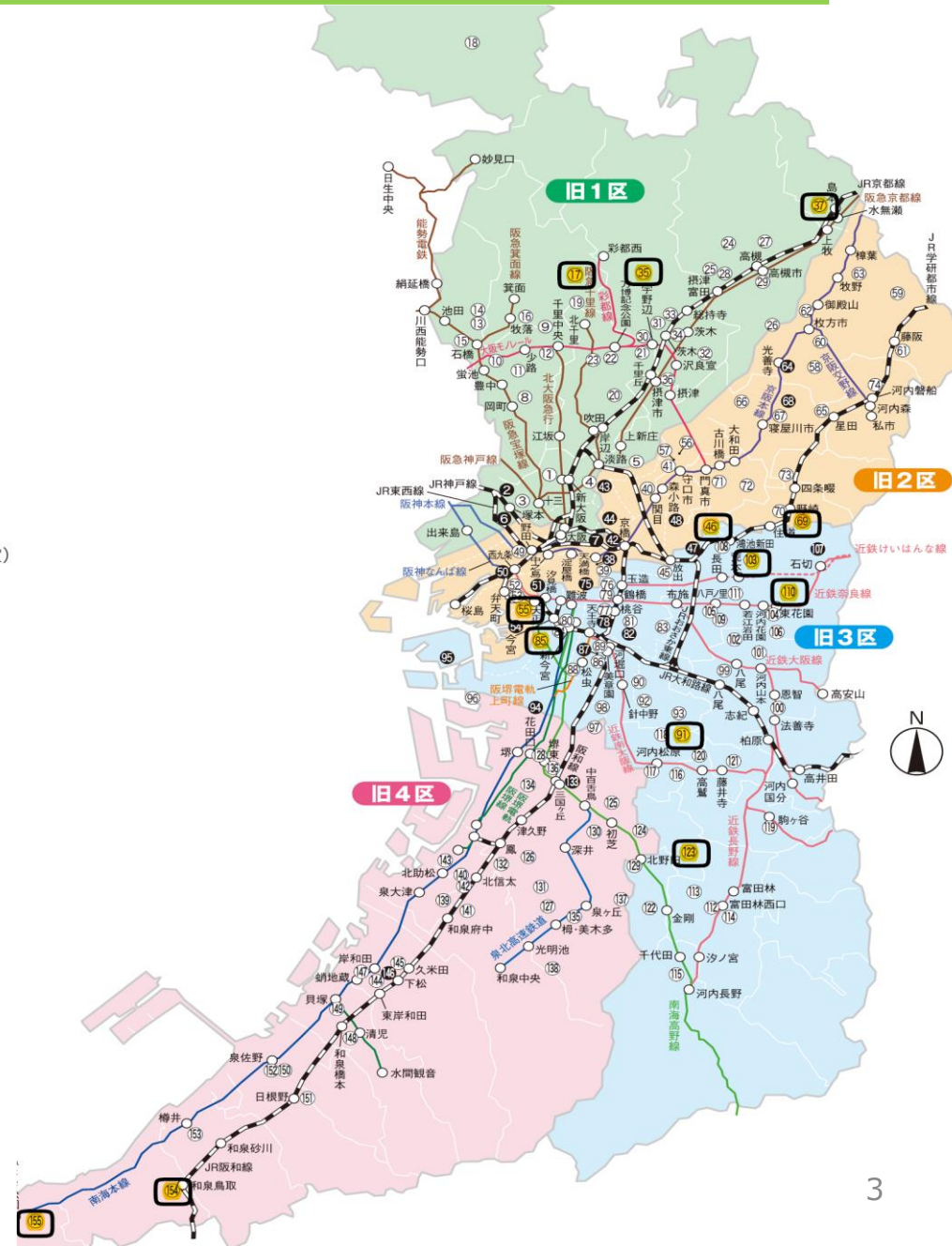
- 137 中央高校(昼夜間)
- 138 大手前高校(全・定)
- 139 旭高校
- 140 淀川工科高校
- 141 東高校
- 142 桜宮高校
- 143 都島工業高校、都島第二工業高校
- 144 成城高校(全・定)
- 145 茨田高校
- 146 汎愛高校
- 147 鶴見商業高校
- 148 西野田工科高校(全・定)
- 149 咲くやこの花高校
- 150 西高校
- 151 港高校
- 152 市岡高校
- 153 泉尾工業高校
- 154 大正白稜高校
- 155 守口東高校
- 156 芦間高校
- 157 香里丘高校
- 158 長尾高校
- 159 枚方高校
- 160 枚方津田高校
- 161 枚方なぎさ高校
- 162 牧野高校
- 163 大阪市立高校
- 164 北かわち阜が丘高校
- 165 西寝屋川高校
- 166 寝屋川高校(全・定)
- 167 野崎高校
- 168 緑風冠高校
- 169 門真西高校
- 170 門真なみはや高校
- 171 四條畷高校
- 172 交野高校

旧4区

- 173 金岡高校
- 174 堺上高校
- 175 堺西高校
- 176 泉陽高校
- 177 登美丘高校
- 178 寝屋川高校(全・定)
- 179 野崎高校
- 180 緑風冠高校
- 181 門真西高校
- 182 門真なみはや高校
- 183 四條畷高校
- 184 交野高校
- 185 産業高校(全・定)
- 186 岸和田高校
- 187 貝塚南高校
- 188 貝塚高校
- 189 佐野高校
- 190 日根野高校
- 191 佐野工科高校(全・定)
- 192 りんくろ翔南高校
- 193 泉島取高校
- 194 岬高校
- 195 泉野
- 196 和泉砂川
- 197 久米田高校

*旧学区表示をしています

平成26年度から、4つの区であった全日制普通科の通学区域が府内全域となりました。



2. 府立高校等の現状と課題認識

② 府立高校等のこれまでの取組の成果

2 - ② 府立高校等のこれまでの取組の成果

(1) 府立学校の学科等別学校数

【平成11年度】

普通科 高校	普通科のみ	117校
	専門学科併置	19校
総合学科高校		3校
専門高校		16校
夜間定時制高校		29校
通信制高校		1校



【平成24年度】

普通科 高校 (108校) ※募集停止校含む	普通科のみ		36校
	専門コース設置		28校
	専門学 科併置 20校	文理学科	10校
		国際教養科	6校
		体育科	2校
		芸能文化科	1校
		音楽科	1校
	総合選択制		19校
	単位制		4校
	教育センター附属校		1校
総合学科高校			10校
専門高校 (15校)	農業	2校	
	工科	9校	
	国際・科学	3校	
	総合造形	1校	
クリエイティブスクール			6校
夜間定時制高校			15校
通信制高校			1校
連携型中高一貫校			2校
自立支援推進校			9校
共生推進校			4校



【令和2年度】

普通科 高校 (84校) ※募集停止校含 む	普通科のみ		32校
	専門コース設置		36校
	専門 学科 併置 11 校	国際科 (グローバル科)	2校
		国際教養科	5校
		体育科	2校
		芸能文化科	1校
		音楽科	1校
	総合学科併置		1校
	単位制		3校
	教育センター附属校		1校
総合学科高校	① 下記②③以外		15校
	② エンバワメントスクール		8校
	③ クリエイティブスクール		1校
多部制単位制	クリエイティブスクール		2校
専門高校 (25校)	農業		2校
	工科		9校
	総合造形		1校
	文理学科 (GLHS校)		10校
	国際文化科・総合科学科		3校
定時制高校			15校
通信制高校			1校
連携型中高一貫校			2校
自立支援推進校			9校
共生推進校			10校
通級指導教室設置校			4校

2. 府立高校等の現状と課題認識

③ 府立高校のあり方等に係る審議に向けた課題認識

2 - ③ 今後の府立高校のあり方等に係る審議に向けた課題認識

(1) 「公平性」追求にあたっての課題

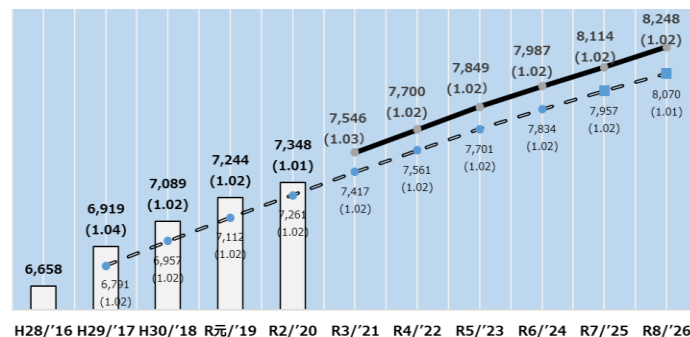
① 配慮を要する生徒の増加 ～ 府立高校における機能強化等の必要性①

○ さまざまな配慮を要する生徒

「知的障がい」「発達障がい」など、「さまざまな配慮を要する生徒」が、近年増加している。

※H24年文科省調査は、公立小中学校の通常の学級において、「学習面・行動面で著しい困難を示す児童生徒」の割合を6.5%と推定する。

- 府教育委員会は、府立支援学校の知的障がいのある児童生徒は、H28（2016）年度（6,658人）からR8（2026）年度（8,248人）までの10年間で1,590人増加すると推計した（再掲）。



○ 府立高校に在籍する障がいのある生徒の増加

府内市町村中学校で支援学級に在籍する生徒数は、中学校はこの10年間でほぼ倍増。

（知的障がいのある生徒：約2.4倍、自閉症・情緒障がいのある生徒：約3.0倍）。

大阪では、府内中学校の支援学級を卒業した生徒の約2割が支援学校高等部に進学し、約3割が公立高校、約4割が私立高校の進路を選択。

② 府立高校における配慮を要する生徒の現状 ～ 府立高校における機能強化等の必要性②

○ 「ともに学び、ともに育つ」教育

府教育委員会では、「ともに学び、ともに育つ」教育の柱のひとつとして、府立高校において、自立支援推進校や共生推進校などの設置などの取組みを進めてきた。

自立支援推進校 9校 90人、共生推進校 10校 75人、通級指導教室設置校 4校 20人

○ 高校生活支援カード

入学時に生徒・保護者が記載した「高校生活支援カード」を活用して、生徒の状況や本人・保護者のニーズを把握。

- 全府立高校（全日制・定時制・通信制）に在籍する生徒数108,458人（令和2年度）のうち障がいにより配慮を要する生徒数 3,174人（3.04%）※平成26年度より人数比40%増

2 - ③ 今後の府立高校のあり方等に係る審議に向けた課題認識

(1)「公平性」追求にあたっての課題

③ 再編整備の状況 ～ 郊外部に位置する生徒の受け皿の減少

府立学校条例（平成24年4月1日施行）

○ 第2条第2項

- ・「入学を志願する者の数が三年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする」

○ 条例に基づく募集停止校

2015年	西淀川	(2017年募集停止、2019年閉校)
2016年	大正	(2018年募集停止、2020年閉校)
2017年	柏原東・長野北	(2019年募集停止、2021年閉校)

○ 現状

- 3年連続 岬、枚岡樟風（※）
- 2年連続 福井、島本、野崎、かわち野、泉鳥取、箕面東、美原、茨田、平野、大正白稜、西成
- ※ 今年度は、コロナによる受験生等の不安を避ける観点から、1年間判断を保留

④ 生徒の地元志向 ～ 府立高校における「地域性」

○ 旧の通学区域ごとの志願者の割合

	志願者の比率					
	旧1区	旧2区	旧3区	旧4区	その他	合計
旧1区の高等学校	96.2%	2.6%	0.3%	0.1%	0.9%	100.0%
旧2区の高等学校	4.2%	85.3%	8.7%	0.9%	0.8%	100.0%
旧3区の高等学校	0.8%	6.3%	86.7%	5.4%	0.8%	100.0%
旧4区の高等学校	0.1%	0.1%	6.0%	93.4%	0.3%	100.0%
全体	旧の通学区域内にある公立中学校出身者の割合 90.7%					

2 - ③ 今後の府立高校のあり方等に係る審議に向けた課題認識

(2) 「卓越性」追求にあたっての課題

■ 未来社会を創造する教育の実現 ～将来を見据えた高度な学びの機会の創出の必要性～

Society5.0時代の到来に向け、グローバル化や情報化などが加速度的に進展する社会においては、SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえた、国際的な視野や課題発見・解決能力、論理的思考力、探究力、コミュニケーション能力を育てることが必要。そのため、さらなる高度な学びの機会の創出が求められる。

○STEAM教育※等の教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成

⇒文理の枠を超えた教科等横断的な視点による教育の必要性

※STEAM教育：Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）を統合的に学習する「STEM教育」に、さらにArts（人文科学・リベラルアーツ）を統合する教育手法

○課題の発見と解決に必要な知識・技能と主体的・協働的に取り組む資質・能力の育成

⇒国内外の大学、企業、地域等の関係機関との連携

○GIGAスクール構想の実現によるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現

⇒一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせることによる学びの深化

○AI、ロボティクス、ビッグデータ、IoTといった技術の高度な発達

⇒情報活用能力、データリテラシーの向上

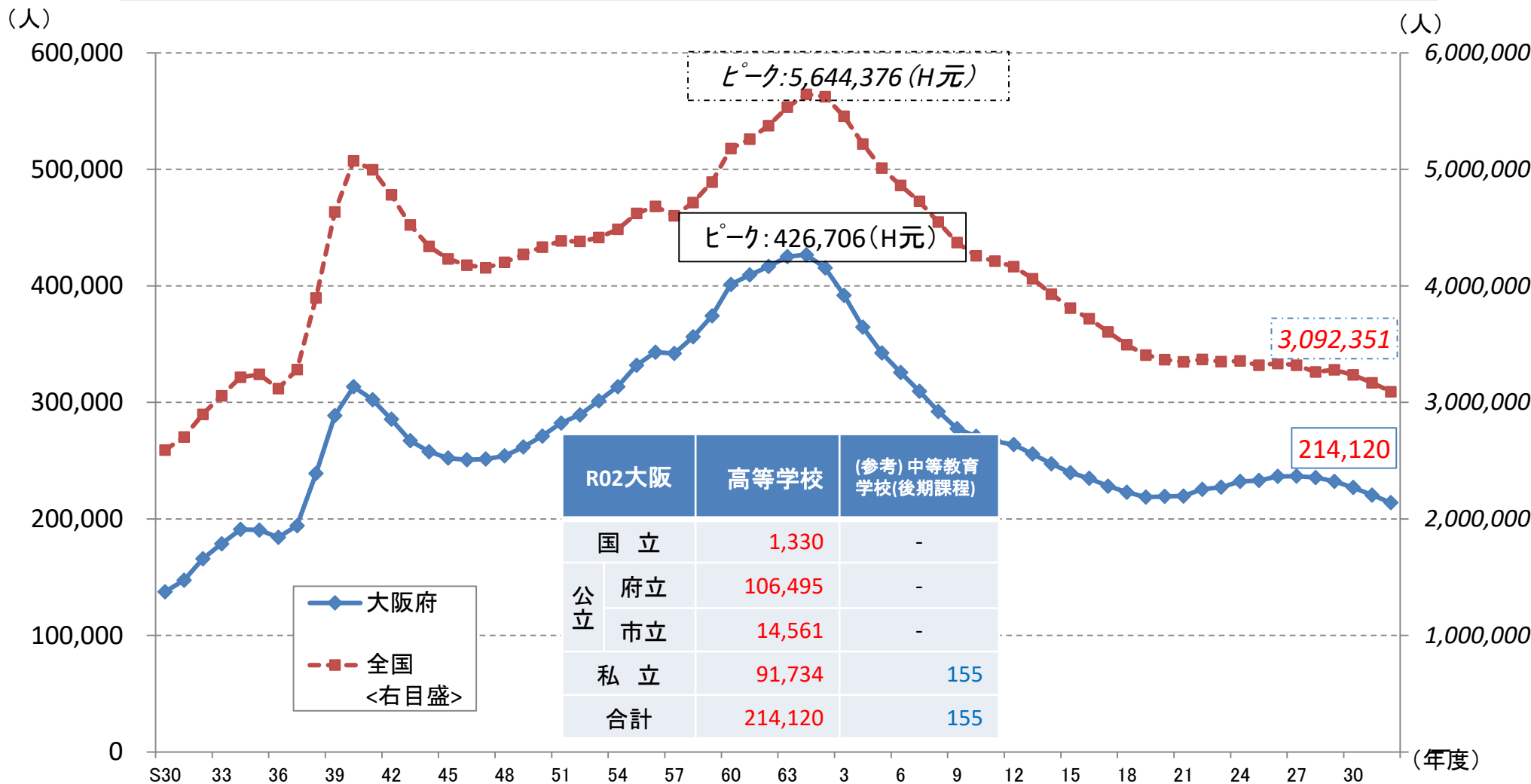
○個々の能力を存分に伸ばせる高度な学びの機会など新たな学びへの対応

⇒大学や研究機関等の多様な人材・リソースを活用したアカデミックな知見を用いた指導の推進

大阪府の府立高校等の状況 <データ集> 抜粋

高等学校の生徒数の推移(全国・大阪府)

- 全国・大阪府とも同じような増減傾向で推移。
- 大阪府では、平成元年をピークに減少し、近年はやや増加傾向であったが、27年度からは減少している。



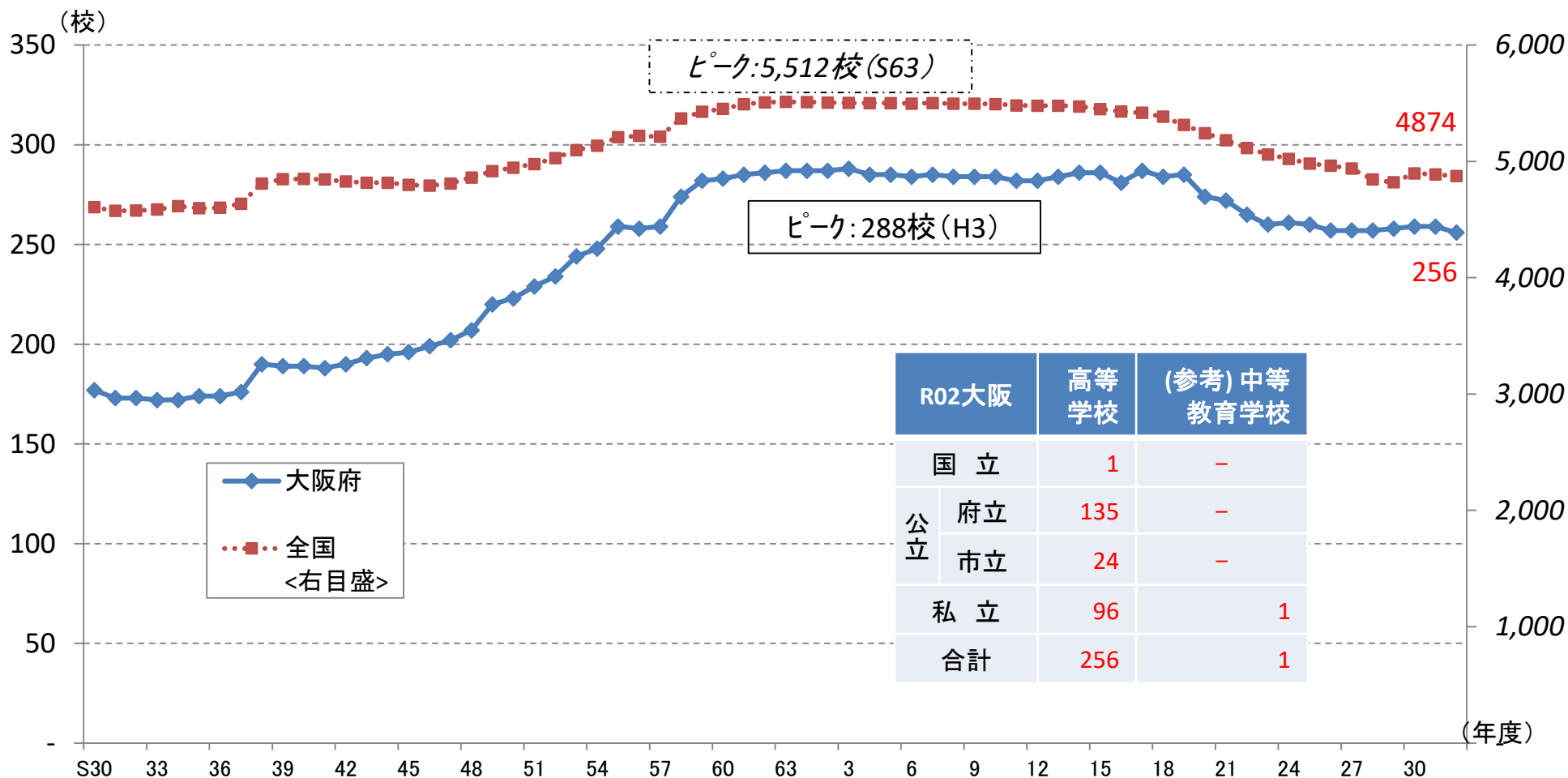
※国立・公立・私立の計(全日制・定時制のみ)

※各年5月1日現在(R02年度は速報値)

出典: 文部科学省「学校基本調査」、大阪府「大阪の学校統計」

高等学校の学校数の推移(全国・大阪府)

- 全国・大阪府とも同じような増減傾向。
- 昭和60年頃からはほぼ横ばいだったが、近年は減少傾向で推移。



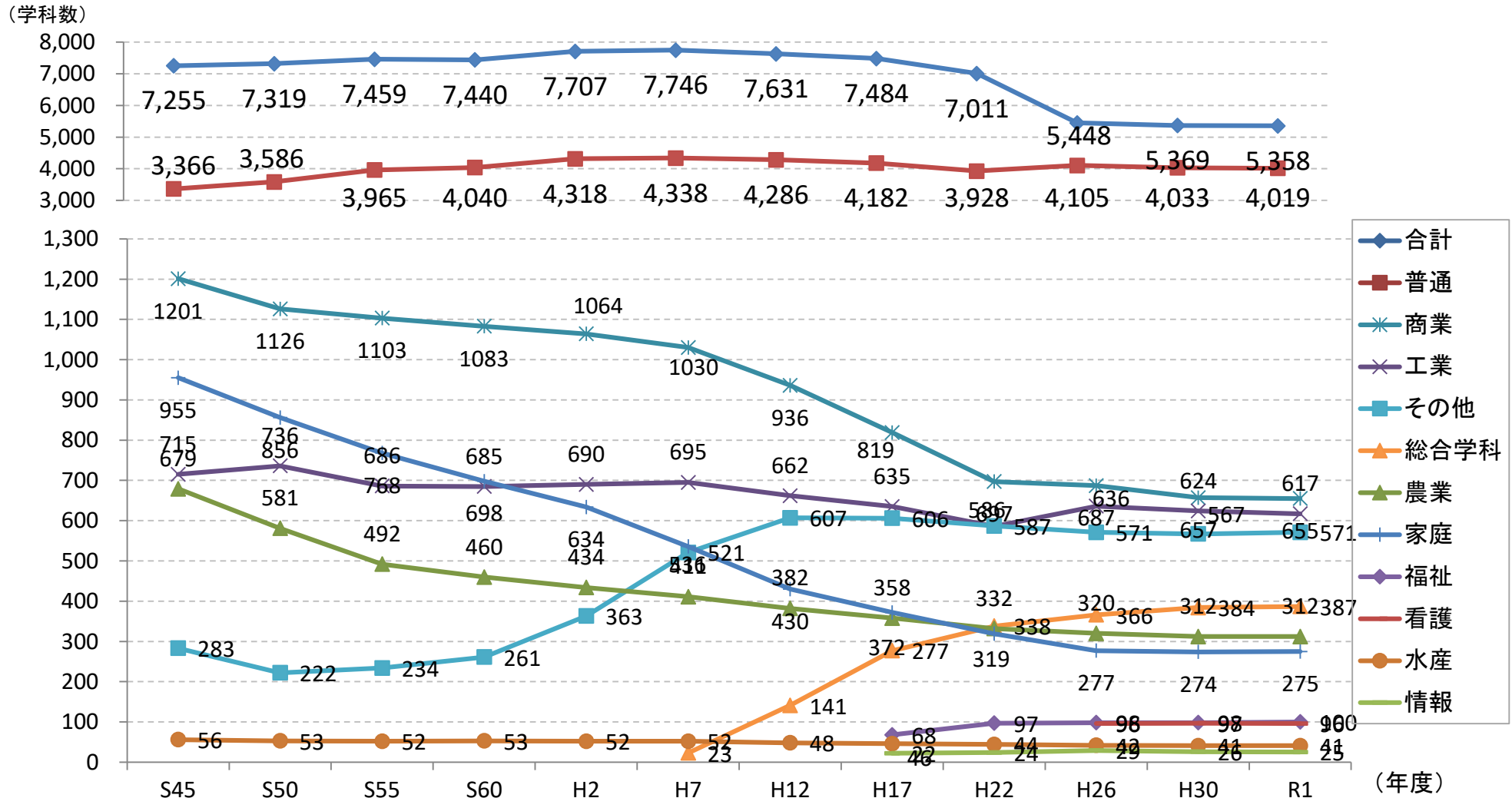
※国立・公立・私立の計(全日制・定時制のみ)

※各年5月1日現在

出典: 文部科学省「学校基本調査」、大阪府「大阪の学校統計」

学科数の推移(全国)

➤ 商業科が大きく減少している一方、総合学科が増加傾向で推移。



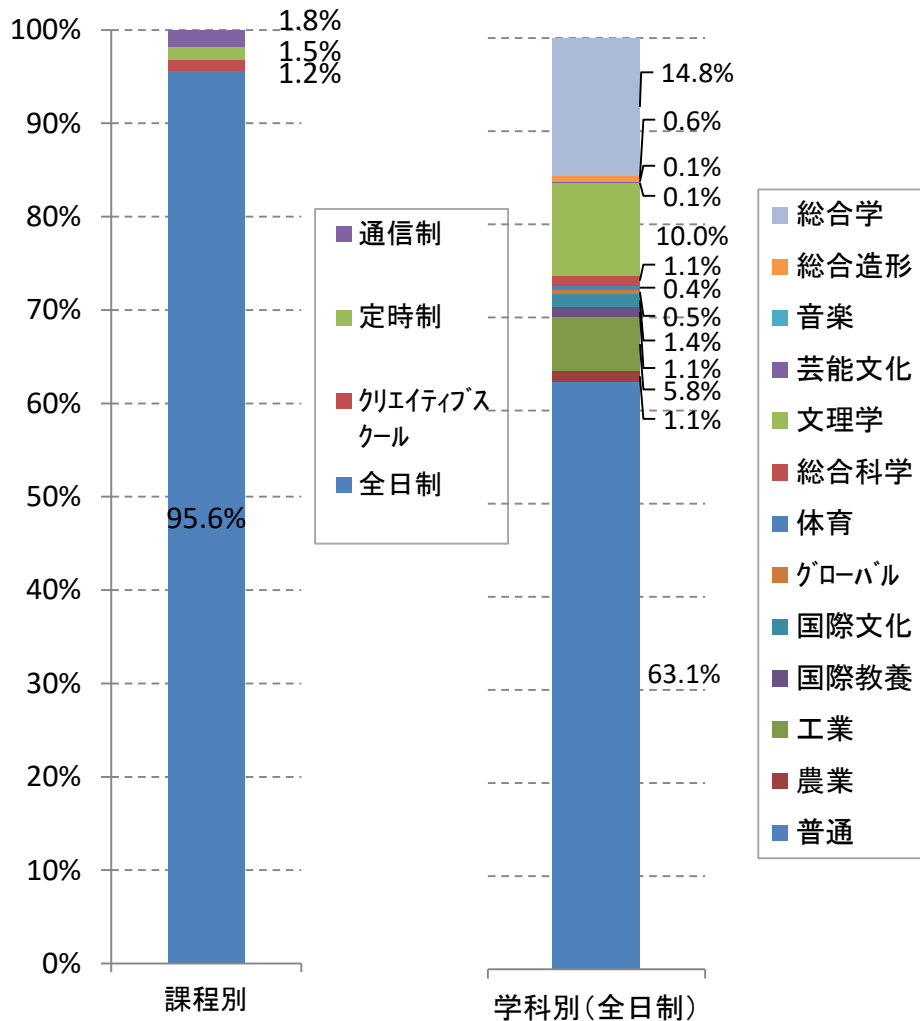
※全日制・定時制のみ

※学科数について、同一の学科が全日制・定時制の両方に設置している場合は1として計上。

※「その他」には、理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係等の学科がある。

府立高校の課程・学科別生徒数

- 府立高校において、全日制の課程の生徒数は府立全体の96.2%を占める。
- 全日制の課程の生徒のうち、普通科が約63.1%。次いで、エンパワメントスクール開校により総合学科が14.8%、文理学科が10.0%、工業に関する学科が5.8%を占める。



【課程・学科別生徒数】

全日制の課程	
普通科	65,878
農業に関する学科	1,153
工業に関する学科	6,042
国際教養科	1,148
国際文化科	1,438
グローバル科	476
体育科	460
総合科学科	1,107
文理学科	10,390
芸能文化科	110
音楽科	117
総合造形科	586
総合学科	15,445
合計	104,350

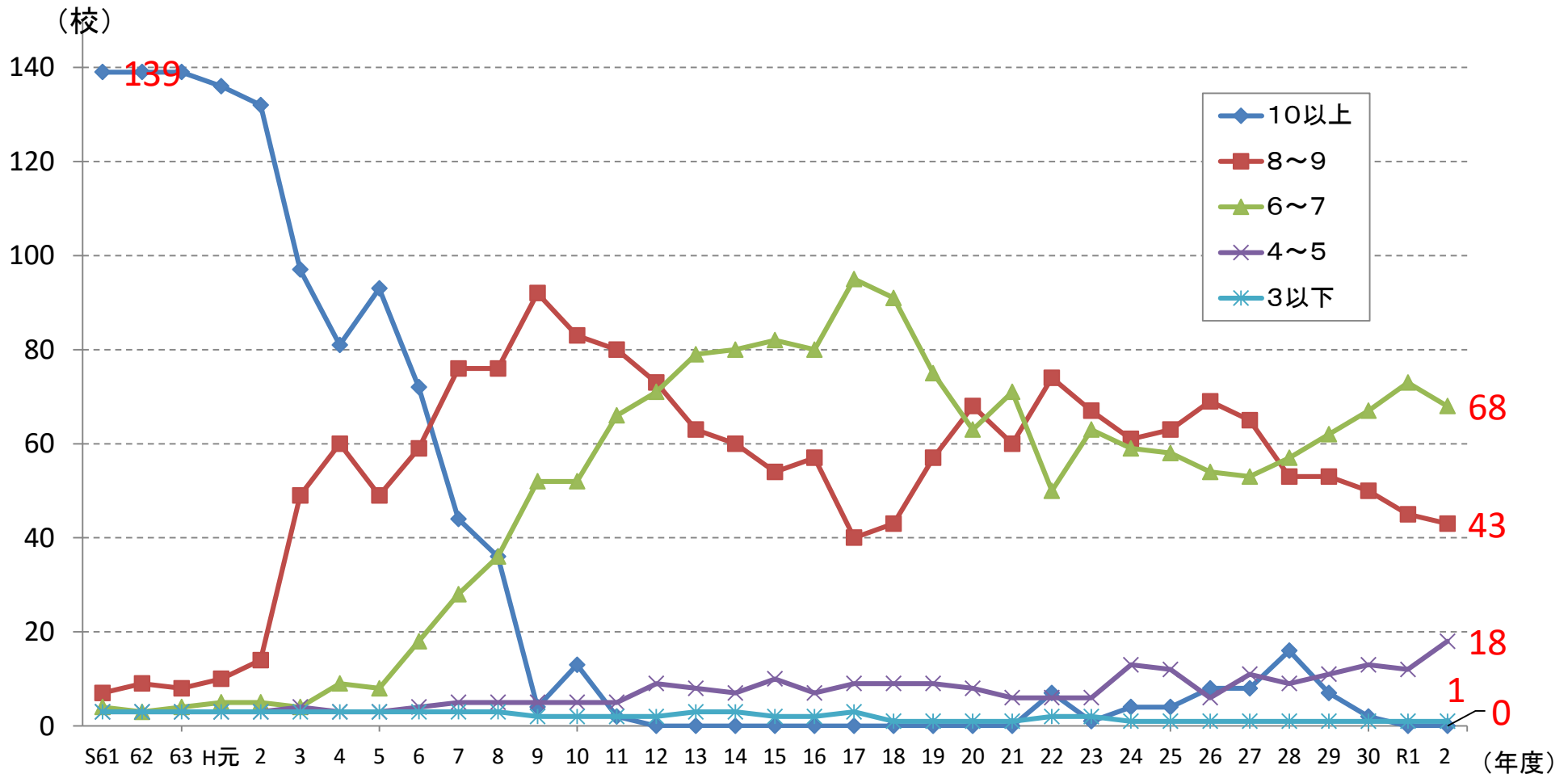
クリエイティブスクール		
全日制総合学科 (全日制の課程 総合学科再掲)	684	
多 部 制 単 位 制	I部(普通科)	402
	II部(普通科)	134
	III部(普通科)	106
合計	1,326	

定時制の課程	
普通科	832
総合学科	670
合計	1,502

通信制の課程	
合計	1,963

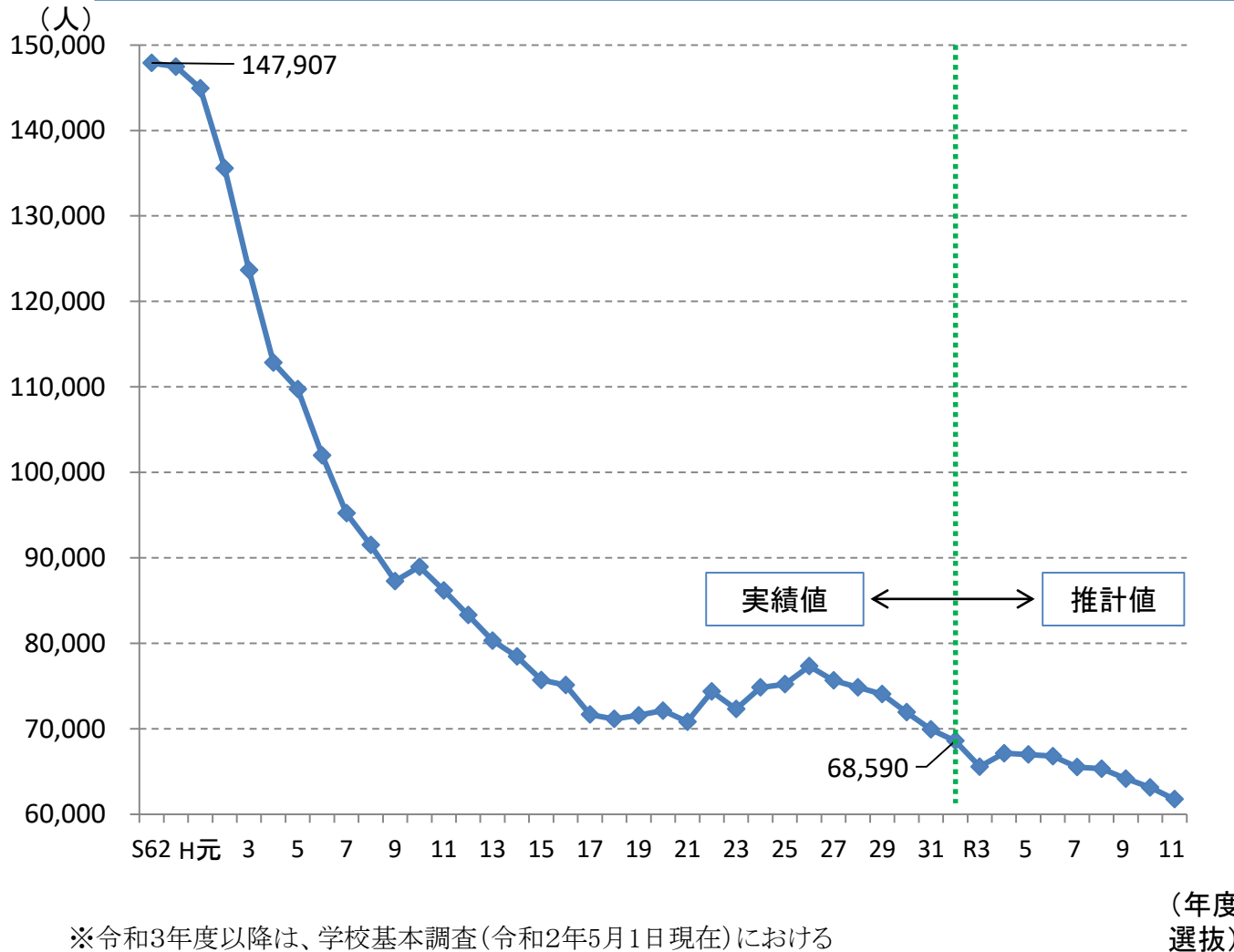
府立高校の学級規模の推移(大阪府)

- 平成2年度頃までは、ほとんどの府立高校が1学年あたり10学級以上の規模。その後、学級規模の減少が進んでいる。
- 平成27年度以降、8～9学級規模の学校が減少傾向にある一方、6～7学級規模の学校が増加傾向にある。



公立中学校卒業生数の推移と将来推計(大阪府)

- 平成29年は、ピーク時(昭和62年)の約半数(50%)。
- 今後、生徒数の減少傾向が続くと予測される。



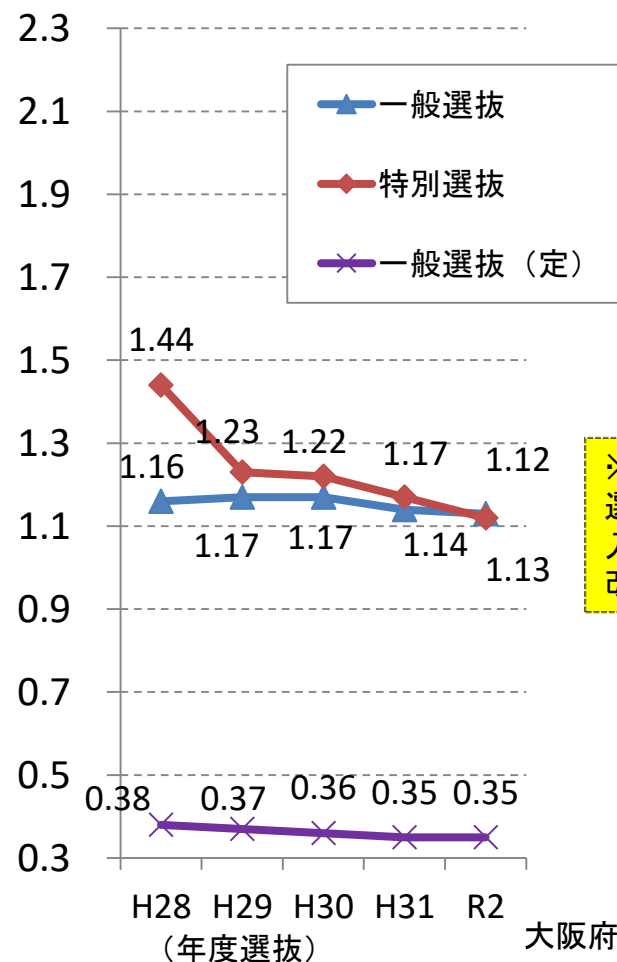
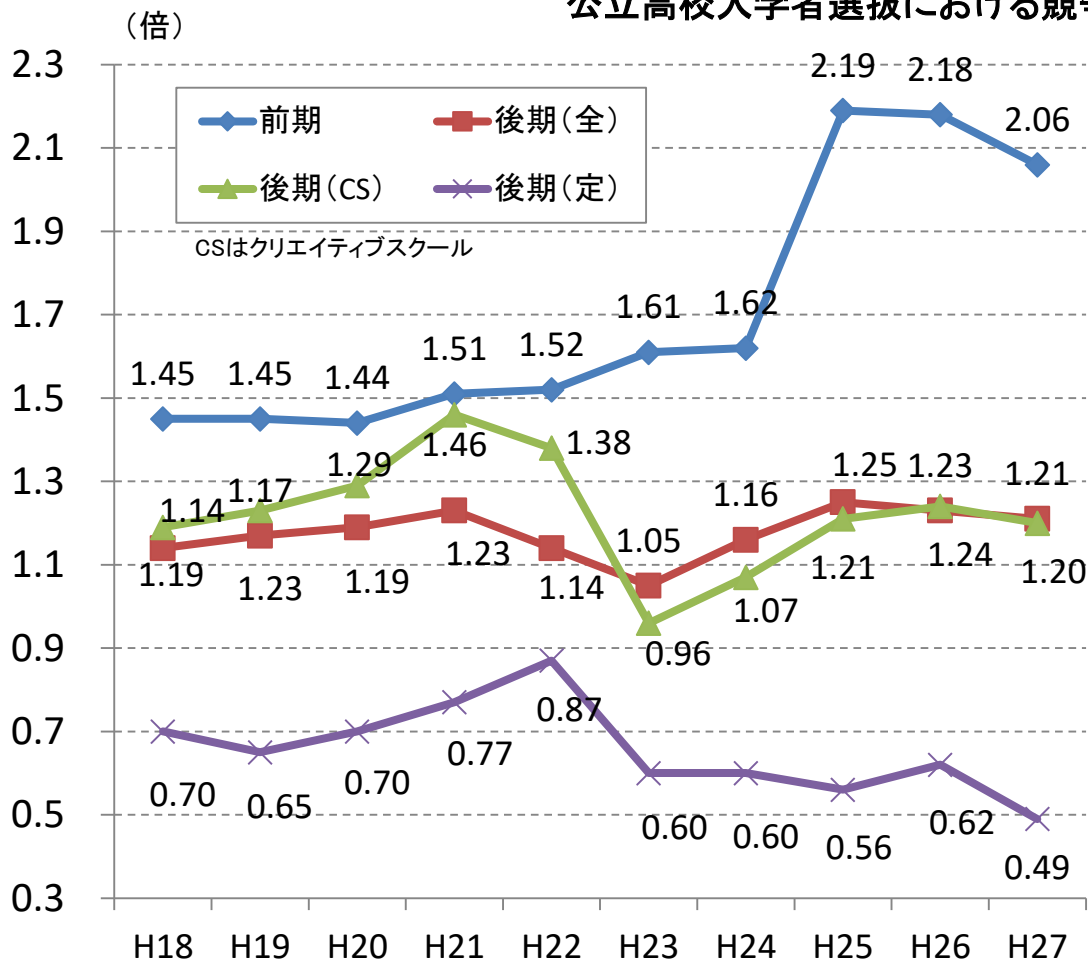
選抜年度	卒業生数	対ピーク時
昭和62年	147,907 (実績)	100%
⋮	⋮	⋮
平成23年	72,298 (実績)	48.9%
平成24年	74,832 (実績)	50.6%
平成25年	75,207 (実績)	50.8%
平成26年	77,316 (実績)	52.3%
平成27年	75,643 (実績)	51.1%
平成28年	74,849 (実績)	50.6%
平成29年	74,051 (実績)	50.1%
平成30年	71,929 (実績)	48.6%
平成31年	69,913 (実績)	47.3%
令和2年	68,590 (速報値)	46.4%
令和3年	65,560 (推計)	44.3%
令和4年	67,130 (推計)	45.4%
令和5年	66,980 (推計)	45.3%
令和6年	66,790 (推計)	45.2%
令和7年	65,510 (推計)	44.3%
令和8年	65,320 (推計)	44.2%
令和9年	64,160 (推計)	43.4%
令和10年	63,140 (推計)	42.7%
令和11年	61,760 (推計)	41.8%

※令和3年度以降は、学校基本調査(令和2年5月1日現在)における府内公立小・中学校在籍児童・生徒数から推計。

公立高校の入学者選抜の状況①(大阪府)

- 平成23年度選抜は、私立高校の授業料無償化拡大等の影響により公私間の流動化が起こり、新たに設置された文理学科を含む前期選抜以外は大きく倍率を下げた。
- 平成25年度選抜は、選抜日程の前倒しや前期実施校の拡大により、倍率は上がった。

公立高校入学者選抜における競争倍率の推移

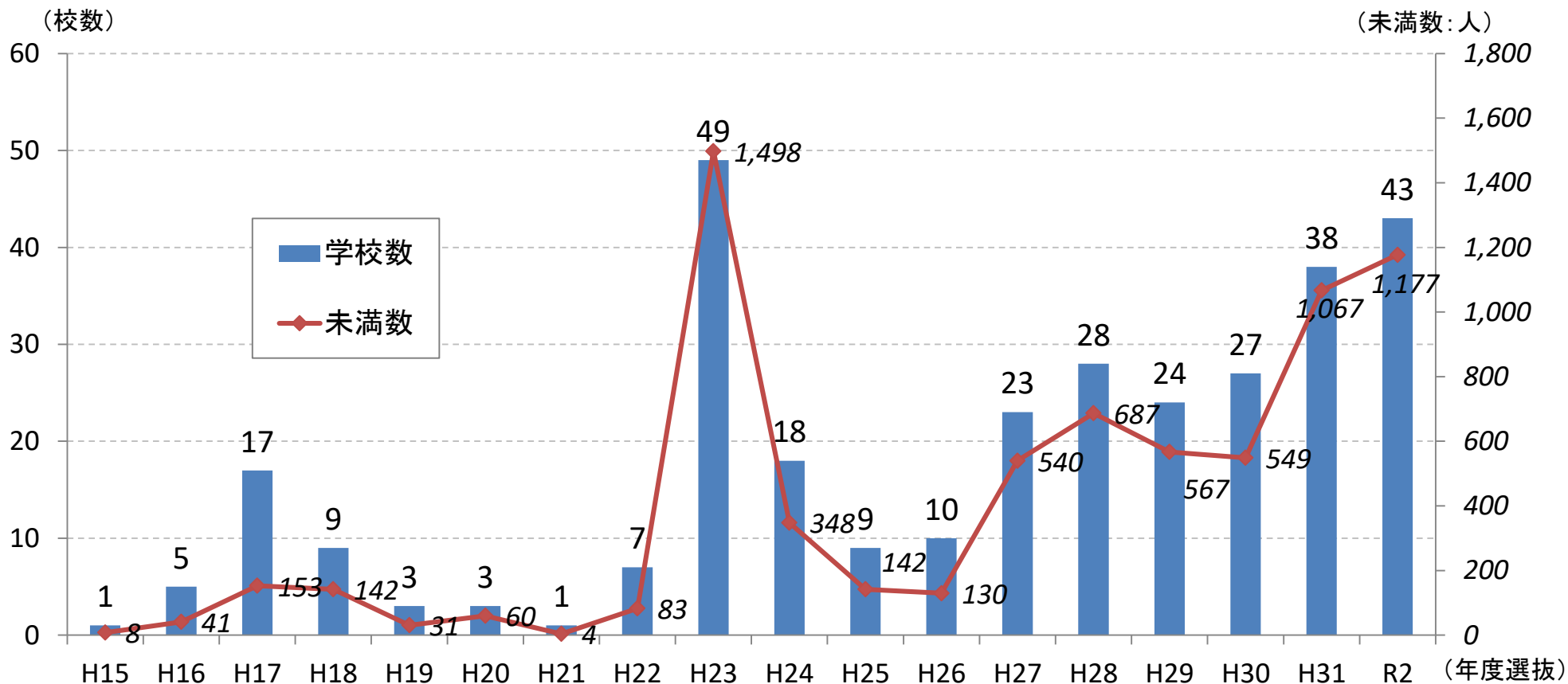


※H28年度選抜より入試制度が改定

公立高校の入学者選抜の状況②(大阪府)

➤ 志願倍率が大きく下がった平成23年度選抜は、大幅な定員割れが発生。

府内公立高校(昼間の学校)の志願割れの状況



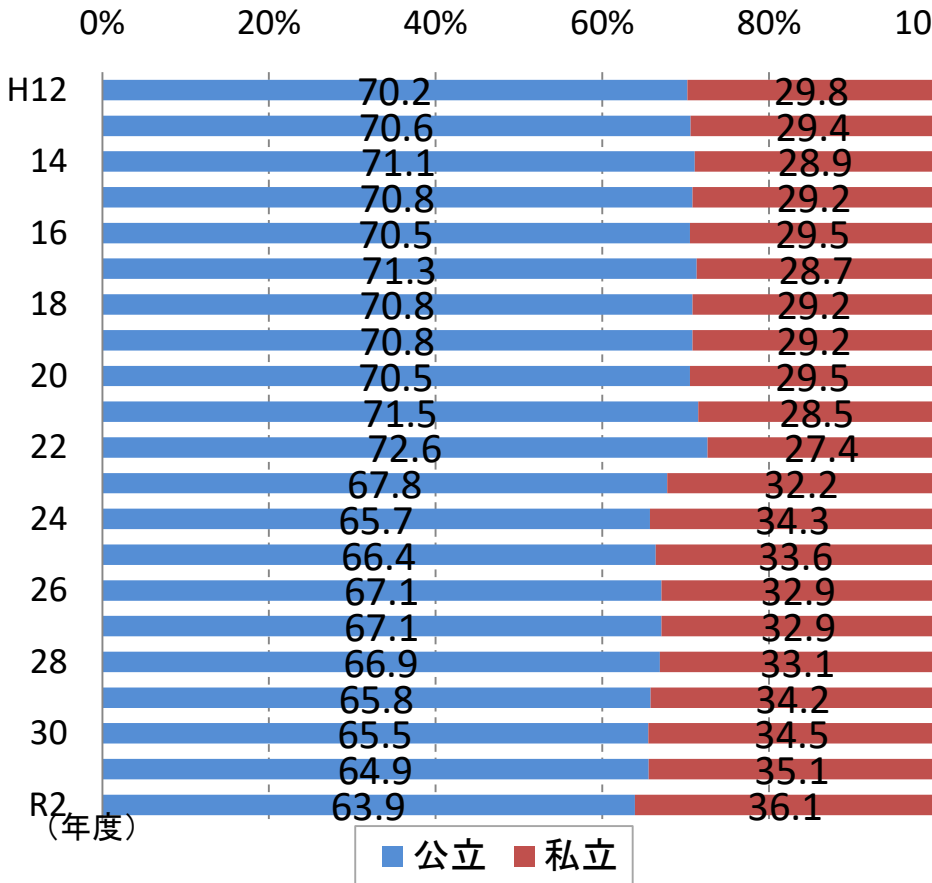
※校数・未満数とも二次選抜終了時点のデータ

大阪府教育庁調べ

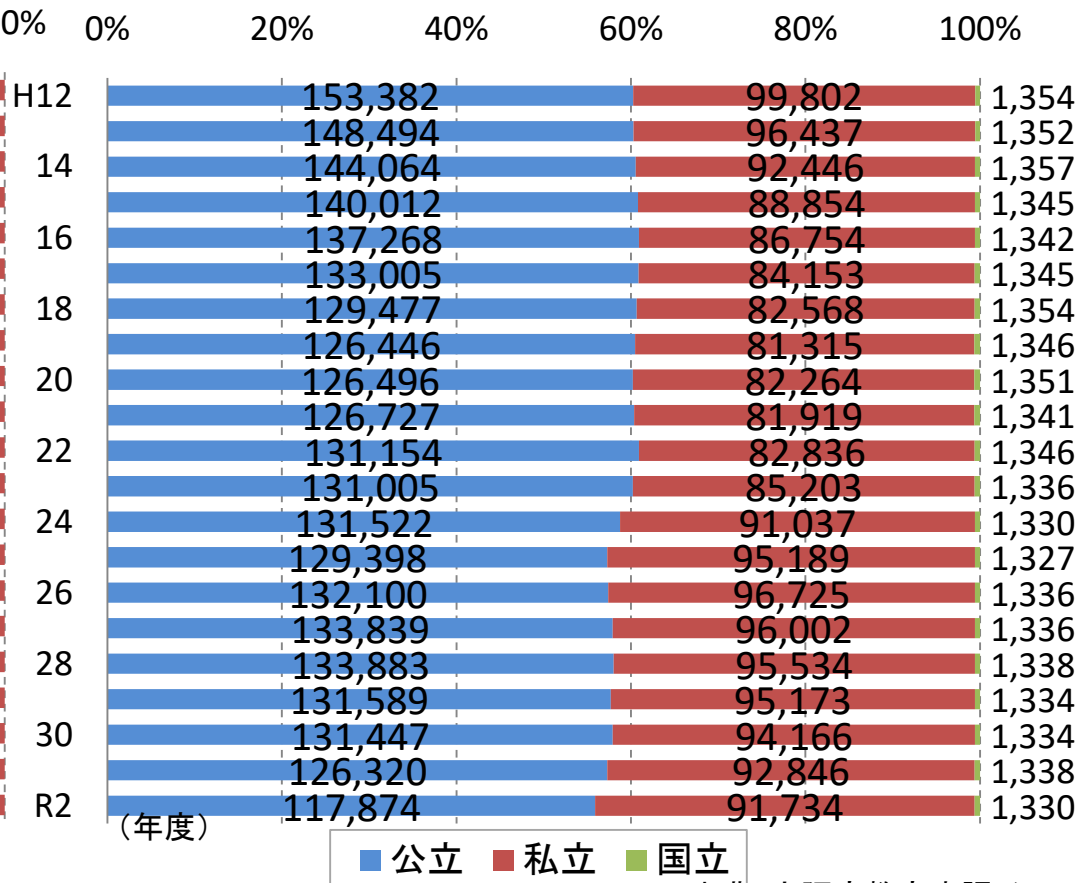
高等学校生徒の公私比率の推移(大阪府)

- 昼間の高等学校の募集人員については、私立高校授業料無償化制度の実施とあわせて、公私分担比率(7:3)の設定を廃止。
- 平成23年度選抜において、初めて7割を下回り、平成25年度選抜～平成27年度選抜は若干上昇したものの、その後は公立が低下する傾向。
- 公私の生徒数は、概ね6:4で推移。

昼間の高等学校における
公立中学校卒業者の公私の受入実績比率の推移

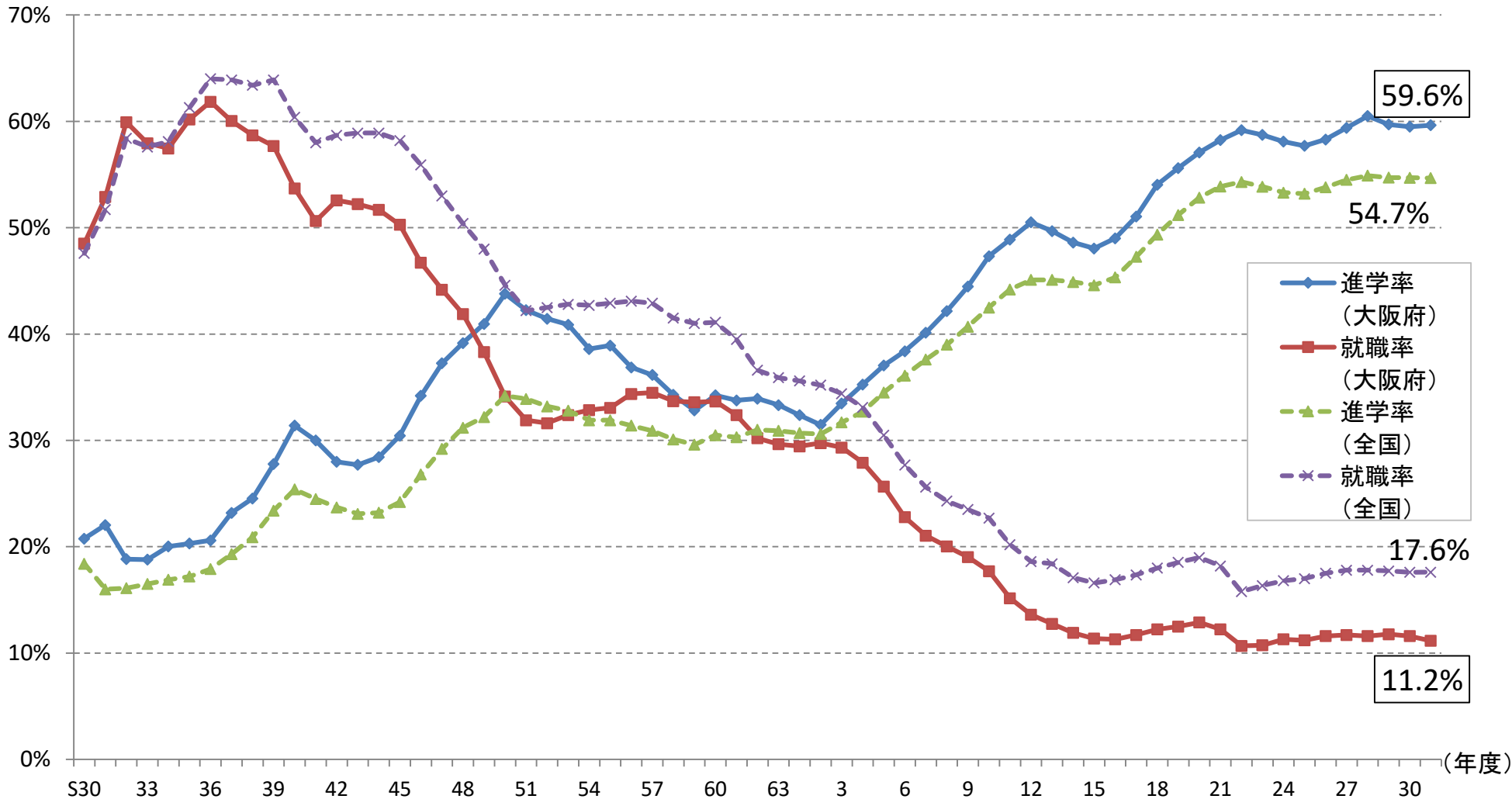


高等学校(全日制)の公私生徒比率の推移



高等学校(全・定)卒業後の進学率・就職率の推移(全国・大阪府)

➤ 全体的な傾向は、全国、大阪府ともほぼ同じような増減傾向にあり、大阪府が全国に比べ進学率が高く、就職率が低い傾向にある。



※進学率:大学・短大等への進学率(専門学校は含まず)